

企業 パトロール

シバセ工業(株)

浅口市鴨方町六条院中3037
TEL.0865-44-2215



本社工場



導入した医療用ストローのクリーンルーム、円内は磯田社長

ストロー製造のシバセ工業(株) (磯田拓也社長) は、18年1月の完工をメドに製造ラインを増強する。飲料や工業、医療用のストローの受注増加に伴うもので、製造ラインを6ラインに増加し、生産体制を1・5倍にする。また、同社は医療用のストローの品質強化のため国際標準「クラス100000」で手術室同等のクリーンルームを設置した。磯田社長(57)は「海外製品が多く出回っているが、多品種小ロット生産の強みで市場ニーズを獲得していく」と話した。

設備の増強は老朽化もあり着手。冷却水や高圧空気、電源を含め、既存の4ラインは2ライン増やし、6ラインとする。新設の2ラインは多品種化への対応のため、デジタル・自動化に加え、ダイレクタドドライブ化した最新設備を導入し生産能力を向上させる。新設ラインで改善の効果

が確認できれば、既存の4ラインも順次入れ替える計画。リニューアルでは人員も増強し、投資額は5千万円規模。工業用と医療用ストローの受注が増えたことで、ストローのパイプ加工のニーズが高まった。ストローの先端をラップ状に広げたり、スリット加工するなどのさまざまな加工に対応する。従来は数100万本単位での受注が無かったため高速自動化機械は必要なかったが、生産性向上のため、比較的自動化した新設備

に対応する。同社は昨年12月、医療用のストローの品質面をブラッシュアップするため、検査・梱包作業を担うクリーンルームを導入した。投資額は800万円規模。医療用ストローは血液分析装置の分析用スポイドチップや呼吸検査装置のマウスピース、バリウム用など、さまざまな用途があり、今後顧客ニーズに沿った商材開発を促進し市場を切り拓く。また、モーター用自動検査装置の製造では日本電産(株) (京都市南区、永守重信社長)

製造ラインを増強に 多品種小ロットの機能

磯田社長は「品質管理マネジメントのISO9001も取得する計画で、さらに顧客満足を上げていく。多品種小ロット生産の強みを生かしたい」と話した。

同社は1949年11月設立。資本金1千万円、パート含めた従業員は35人。売上高は3億2千万円(17年3月期)。生産拠点は本社と浅口市金光町の金光工場の2拠点。営業展開は、東日本地区を埼玉県さいたま市の関東営業所が、西日本地区を本社が網羅して

を主要取引先に行っているが、展示会出展などで積極的にアピールし、取引先を拡大する計画だ。

磯田社長は「昨期の年商は前年比106%を達成した。今期も顧客ニーズに沿った商材開発で、飲料用ストローは1割増、工業・医療用も計1割増の販売を目指す。ISO9001取得も既にキックオフしており、来年6月には認証予定。今後もサービス・商品力のブラッシュアップで販路開拓に務めたい」と話した。